ツバメチドリ　*Glareola maldivarum* Forster

【選定理由】

春秋の渡りで伊勢・三河湾沿岸の干拓地や埋立地などに飛来し、少数が繁殖する。かつての愛知県は国内唯一の継続的な繁殖地であり、豊橋市では何十羽ものコロニーで繁殖していたが、1990 年代後半以降激減して繁殖が確認されなくなった。近年は主に三河湾沿岸で、春秋の渡りの季節や夏季にごく少数が確認されるが、繁殖は確認されていない。

【形　態】

全長 23～24cm、翼開長 59～64cm。夏羽は、上面が灰褐色で胸と腹に橙色味を帯び、喉は黄白色で黒色の縁取りがあり、目先が黒く下嘴の基部が赤い。冬羽は、全体的に暗色味が強く、喉や顔のコントラストは夏羽に比べてかなり不明瞭。尾は燕尾型で黒く、翼は長く先端が尖り下雨覆は赤褐色。飛翔時は上尾筒の白色がよく目立つ。

愛知県西尾市, 2007 年 5 月 31 日, 高橋伸夫 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

伊勢・三河湾の沿岸で繁殖していたが、近年は繁殖記録がなく、春から秋にかけてごく少数が飛来するのみである。

【国内の分布】

主に春と秋の渡りの時期に飛来するが、本州、九州、沖縄で局地的に繁殖記録がある。

【世界の分布】

中国東部、東南アジア、インドで繁殖し、東南アジア、インド、オーストラリアで越冬する。

【生息地の環境／生態的特性】

春期は 4 月から 5 月、秋期は 7 月から 10 月にかけて、沿岸部の干拓地や埋立地などに渡来し、単独から数羽の群で生息する。乾燥した耕地や埋立地の荒地などを好み、営巣する場合は単独または小規模のコロニーを作って繁殖する。主にツバメのように上空を飛び廻りながら昆虫を捕食するが、地上で昆虫を捕食することもある。

【現在の生息状況／減少の要因】

鍋田周辺と汐川干潟周辺、矢作川河口周辺での記録が多い。繁殖は 1976 年に汐川干潟周辺（豊橋市）の埋立地で初めて確認され、以降は鍋田周辺、矢作川河口周辺、旧田原町から旧御津町にかけての干拓地及び埋立地でも記録がある。埋立地は環境の変化が大きく、干拓地の耕地は耕作による撹乱を受けやすいが、最大の脅威はカラスによる卵やヒナの捕食である。県内での繁殖がなくなった最大の要因として、繁殖期に沿岸部に生息するカラス類の増加が挙げられる。

【保全上の留意点】

沿岸部の干拓地や埋立地の遊休部分に空地環境を復元し、繁殖環境の創出に努める必要がある。沿岸部におけるカラス類の増加は、都市化や農業形態の変化による。都市ではゴミの増加とその管理不足、農地では農業機械の大型化等により収穫漏れの作物が多くなって、本来冬期の餌不足で淘汰されていたカラスが生き残ることによる。

【特記事項】

本種に限らず、開けた場所の地上で営巣する種の繁殖を脅かす外敵として、これまではカラス類が最大の脅威であったが、近年県内で繁殖するようになったチョウゲンボウも大きな問題である。

【関連文献】

山形則男, 1996. 汐川干潟周辺のツバメチドリの繁殖について. BIRDER 第 10 巻 第 10 号, pp.46-55. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）